

平成28年度第1回江別市廃棄物減量等推進審議会議事録

日 時	平成28年7月12日（火）10時00分～11時30分
場 所	江別市民会館 37号
出席委員	押谷会長、佐藤副会長、五十嵐委員、小出委員、津嶋委員、中井委員、林倉委員、星委員、丸山委員、三輪委員、最上委員（11名）
欠席委員	岩崎委員、山崎委員（2名）
事務局	高橋生活環境部長、湯藤生活環境部次長、近藤環境室長、鈴木廃棄物対策課長、中町施設管理課長、和田庶務係長、佐藤指導係長、中村減量推進係長、五十川減量推進係主査（資源化担当）、岡田減量推進係主任、今野庶務係主事（11名）
傍聴者	2名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員・職員の自己紹介 3. 会長挨拶 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ①平成27年度ごみ排出量等の実績値について ②江別市一般廃棄物処理基本計画の各施策の進行管理について ③第8期江別市分別収集計画の策定について (2) その他 5. 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 平成27年度江別市ごみ排出量等の実績値について ・資料2 江別市一般廃棄物処理基本計画の各施策の進行管理について ・資料3 第8期江別市分別収集計画

▼会議内容

【委嘱状交付】

はじめに、この度、江別消費者協会の河瀬めぐみ様が、江別市廃棄物減量等推進審議会委員を辞退されたことに伴い、あらためて江別消費者協会の三輪洋子様が審議委員をお引き受けいただきましたので、委嘱状を交付させていただきます。

（委嘱状交付）

【生活環境部長挨拶】

今年4月1日の異動で生活環境部長を拝命いたしました高橋でございます。昨年度、審議会委員の皆様には、一般廃棄物処理基本計画の見直しについて、様々な視点で議論をいただきました。3月に答申をいただき、平成28年度よりスタートできましたことを心よりお礼申し上げます。

今、社会情勢や国の機運は、刻々と変化しており、少子高齢化が進む中、行政の各部署においては、課題解決に向けて施策を立て、その対応にあたっております。清掃行政においても同様で、基本計画に基づき安全で快適な生活環境づくりに取り組んでいるところでございます。その取り組みといたしまして、特に2点ほどお話ししたいと思います。

まず、1点目ですが、食品ロスの削減についてです。日本では、食べられるのに廃棄される食品、いわゆる食品ロスは、約642万tと試算されており、このうち約300万tは家庭から出るものと言われている中で、全国的に食品ロスの削減に向けた取り組みが広がりつつあります。今回見直しました計画の中においても、生ごみの減量化対策として市民の皆様、食材の使い切

りなどの啓発を行っていくことにより食品ロスの削減を目指すこととしております。

2点目といたしましては、災害廃棄物の処理についてです。ご承知のように熊本地震などでは大きな被害があり、江別市民にとりまして、災害に対する不安があらうかと思えます。こうした災害に伴う廃棄物の処理体制の確保は、急務であると考えており、今回の計画でも、大規模災害時のごみ処理体制の確保について基本方針の中に盛り込んでおり、広域的な取り組みとして進めていく計画でございます。

最後になりますが今後、目標年次までの5年間、ごみの減量化と資源化の推進のほか、市民の安心、安全な生活の確保に向け、引き続き、委員の皆様のご意見をいただくことをお願い申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。

【資料確認】

○廃棄物対策課長

まず、本日お配りした資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、次第、委員名簿、関係市職員名簿、資料1「平成27年度江別市ごみ排出量等の実績値について」、資料2「江別市一般廃棄物処理基本計画の各施策の進行管理について」、資料3「第8期江別市分別収集計画」となります。

【開会】

○廃棄物対策課長

それでは、これより江別市廃棄物減量等推進審議会を開催いたします。本日は、岩崎委員と山崎委員が所用により、予め欠席のご連絡がありましたので、ご報告申し上げます。本日は、定数13名のうち現在11名の出席があり、本審議会は成立しております。

次に、三輪委員は初めての審議会ですので、あらためて各委員から自己紹介をお願いしたいと思います。お名前とともに所属など、簡単に結構なので自己紹介をお願いします。では、五十嵐委員からお願いします。

(委員自己紹介)

○廃棄物対策課長

ありがとうございました。続きまして、本日出席の職員を紹介させていただきます。

(職員紹介)

○廃棄物対策課長

それでは、会長からご挨拶お願いいたします。

【会長挨拶】

○会長

昨年度、一般廃棄物処理基本計画の中間見直しの審議、作業等ありがとうございました。おかげさまで、最終的にまとめていただくことができました。そして、私たちの任期は残り1年です。今年、大きなことはないかもしれませんが、廃棄物問題はさまざまな分野にわたりますので、改めて様々な問題があった際はよろしく願いいたします。

○廃棄物対策課長

続きまして、議事に入る前に、廃棄物減量等推進審議会の公開につきましてご説明いたします。

市では、江別市情報公開条例第20条の規定により、市民の市政への参画を促進するとともに、公正で透明な市政を推進するために、審議会等は支障のない限り公開を原則としており、この審議会でも傍聴者を認めております。

また、会議の議事概要として、発言内容を発言者の氏名とともに市のホームページ等で公開いたしますので、ご了承いただきたいと思っております。本日は、2人の傍聴希望者が待機しております。入場いただいて、これ以降の議事を傍聴いただこうと考えておりますが、よろしいでしょうか。
(各委員了承)

○廃棄物対策課長

それでは、傍聴者の方に入室していただきます。
(傍聴者入室)

○廃棄物対策課長

傍聴者の方に申し上げます。会議の開催中は、静穏に傍聴することとし、拍手その他の方法により賛成、反対の意向を表明するような行為はご遠慮いただいておりますので、ご協力の程をよろしくお願いいたします。

それでは、次第の「4. 議事」に入りたいと思っております。これ以降の議事の進行につきましては、押谷会長、よろしくお願いいたします。

○会長

それでは、議長を務めさせていただきます。先ほどご説明ありましたように次第が配られていると思っておりますが、本日の報告事項は3点ございます。まず、1点目「平成27年度江別市ごみ排出量等の実績値について」事務局から説明をお願いいたします。

【議事】

(1) 報告事項

①平成27年度江別市ごみ排出量等の実績値について

○減量推進係長

廃棄物対策課の中村です。私からは、「平成27年度江別市ごみ排出量等の実績値について」ご説明いたします。

資料1の1ページをご覧ください。1の当初計画における平成27年度中間目標値と平成27年度実績値の比較についてですが、(1)排出抑制の中間目標値と平成27年度実績値の比較について、上段の総量の欄、1段目の排出量をご覧ください。平成27年度実績の家庭系ごみと事業系ごみを足した排出量は40,356tとなっており、中間目標値の40,000tより、356t多い状況であります。そのうち、平成27年度実績の家庭系ごみの量は、30,045tとなっており、中間目標値の30,430tより385t少ない状況であります。

次に、下段の1人1日あたりの欄、1段目をご覧ください。

平成27年度実績の1人1日当たりの排出量は、927gとなっており、中間目標値の920gより7g多い状況であります。内訳を見ますと、平成27年度実績の家庭系ごみの1人1日当たりの排出量は、690gとなっており、中間目標値の700gより10g少ない状況であります。

(2)資源化の中間目標値と平成27年度実績値の比較についてですが、平成27年度実績の資源化率は29.5%となっており、中間目標値の約31%まで、1.5ポイント少ない状況であります。

(3)最終処分場の中間目標値と平成27年度測量値の比較についてですが、表の1番下の段の平成27年度残余容量の測量値は、31,584m³あり、中間目標値の30,789m³より795m³多い状況であり、最終処分場の延命化が図られている状況であります。

次に、資料1の2ページをご覧ください。2の平成32年度目標値と平成27年度実績値の比較についてご説明いたします。

(1) 排出抑制の目標値と平成27年度実績値の比較について上段の総量の欄、1段目の排出量をご覧ください。平成27年度実績の総排出量と比較すると、平成32年度の目標値の38,360tを達成するためには、排出量を1,996t削減する必要があります。

次に、下段の1人1日あたりの欄、1段目をご覧ください。1人1日当たりの排出量は、平成27年度実績と比較すると、目標値の910g達成まで、17g削減する必要があります。そのうち、平成27年度実績の家庭系ごみの1人1日当たりの排出量は、目標値の695gより5g少なくなっておりますが、その下の段の内訳では、家庭系廃棄ごみが、目標値より36g多く、集団資源回収等が、目標値より41g少ない状況となっていることから、目標値を達成するためには、家庭系廃棄ごみを減らし、資源物を増やすことが求められます。

(2) 資源化の目標値と平成27年度実績値の比較についてですが、資源化率の目標値の約33%まで、3.5ポイント少ない状況であります。

(3) 最終処分の目標値ですが、平成27年度の残余容量から推計いたしますと、平成32年度の目標値13,303m³以上の容量を確保できる状況です。

最後に資料1の3ページをご覧ください。3の平成27年度実績値と平成26年度実績値の廃棄物の種類別の比較についてですが、平成27年度実績の家庭系ごみ、集団資源回収、事業系ごみの全ての排出量が、平成26年度実績より減少しております。最も減少しているのは、集団資源回収における古紙類の528t、2番目は家庭系の燃やせるごみの433tとなっております。減少の原因につきましては、人口の減少も一つの要因と考えられますが、経済や社会情勢のほか、他市の状況も含め、調査して参りたいと考えております。

今後におきましては、昨年度見直しました一般廃棄物処理基本計画の各施策をしっかりと取り組み、ごみの減量化と資源化を進め、目標値の達成を目指していきたいと考えております。

説明は以上であります。

○会長

何かご質問・ご意見などがありましたらお願いします。

○中井委員

まず、質問ですが、先ほどの資料1の1ページ目において事業系ごみが中間目標値に達していない中で、家庭系ごみは目標値以上に減っています。事業系ごみが減量化されない原因とその対策についてもう少しご説明を頂きたいです。

2点目は、2ページ目の説明の中で、平成32年度にむけての減量化について、家庭系ごみの減量化が鍵になると説明をうけたが、むしろ事業系ごみの方が重大な鍵を握っているかと思えます。なぜ、そういった考えなのか納得いく説明をお願いしたいと思います。

○会長

中井委員、資料をご覧ください。資料1の1ページ目の家庭系ごみ30,045tという実績値ですが、そのうち、家庭系廃棄ごみは21,807tです。そして、目標値が20,880tなので、実は達成していません。それと、ご指摘があったように、事業系ごみについては実績値が10,331tで、それに対し、中間目標値が9,570tですから、741t達成していません。そのところは、お間違え無いようにしていただきたいと思えます。事務局のほうから何か追加のご説明はございますか。

○廃棄物対策課長

事業系ごみが減少しない理由についてですが、事業系ごみはあくまでも事業活動に伴うごみとなりますので、その部分に関しては今後も分析が必要だと考えております。

家庭系ごみについて、今後対策が必要だとご説明申し上げたことにつきましては、実際、家庭系廃棄ごみが減るよりも実は集団資源回収の減少によって下支えされているという部分もありますので、今後さらに、家庭系廃棄ごみの減少に努めていかなければならないという考えです。

事業系ごみにつきましては、処理計画の施策2-5)「事業系ごみの適正処理」の「指導・啓発」、「多量排出事業所指導」、「資源物の資源化推進の支援」などを今後5年間進めながら事業系廃棄物の減少を目指していきたいと考えております。以上です。

○会長

中井委員、今のご説明でほかに何かございますか。

○中井委員

ありません。

○会長

ほかの方々はありますか。

○五十嵐委員

すべて詳しく見ていないので、資料1の1ページだけでは何とも言えないところもありますが、平成26年度の基準年度から平成27年度の実績値の総量排出量を見ると1,219t減少しています。あくまで、平成27年度の間目標値に近づけるもしくは超えるのが、ベストだとは思いますが、1,200t以上減っているということから、去年の中間見直しにかかるまでにやってきたことが浸透してきたと捉えることができると思います。平成27年度の間目標値に達していないことだけを見るのではなく、平成26年度から平成27年度で減少していることから、希望的観測ではありますが、平成32年度までの残り5年で目標値を達成できるのではないかとこの視点から話をしていた方が建設的であるかなと思います。

○会長

ありがとうございます。そちらはご意見として賜ります。様々な施策を講じているところで、それなりの成果は徐々に上がっていて、中間見直しを作った段階ですから、今後さらに深めていく必要があるというご意見だと思います。

ほかに何かご質問・ご意見ございますか。よろしいでしょうか。次の報告事項に移らせていただきます。2点目「江別市一般廃棄物処理基本計画の各施策の進行管理について」事務局よりご説明お願いいたします。

②江別市一般廃棄物処理基本計画の各施策の進行管理について

○庶務係長

廃棄物対策課の和田です。私からは、「江別市一般廃棄物処理基本計画の各施策の進行管理について」ご説明いたします。

資料2をご覧ください。昨年度、当審議会で審議していただき、基本計画の見直しを行ったところですが、基本方針に基づく26の施策および取り組み事項を一覧にしております。

施策の番号の頭に★(星マーク)が付いているものは、見直し後の新規の施策で、4つの施策がございます。また、一番右の欄の取り組み事項につきましては、新規事項に◎、これまで実施しており、今後さらに推進・発展させていく事項に○印、これまで同様に継続していく事項に△を付けております。

今回の報告では、見直し後の施策に基づき、現段階で取り組みを進めている主な事項について説明させていただきます。

まず、基本方針1の施策1-2)「広報機能の充実」では、取り組み事項の3つ目にあります「ごみ分別アプリ導入」ということで、スマートフォンやパソコンで自分の居住している地区のごみの収集日を知ることができるアプリケーションを作成し、現在動作確認を行っており、10月からの導入を予定しております。

同じく基本方針1の施策1-6)「リサイクルバンクの運営」では、取り組み事項の3つ目にあります「リユースシステム作り」ということで、4月9日に酪農学園大学と市が連携して、学生が主体となった家具のリユース市を実施しました。これは、卒業生などから不要となった家具類を回収し、希望する新入生などに提供するもので、当日の入場者数は74名で、展示数13点中12点が引き渡されました。次年度以降も、大学側との連携によるリユースシステムとして効果的な事業に向けて検討していきたいと考えております。

続いて、新規の施策であります1-10)「事業系食品残渣再利用の推進」では、「飼料化の実施」につきましては、昨年度7月から市内民間事業者による給食残渣の飼料化試験を行っており、今年度も引き続き実施していきます。昨年度は約17t、今年度は約20tの資源化を見込んでおります。また、「堆肥化の実施」につきましては、現在市内民間事業者による食品残渣を用いた堆肥化試験の申し出があり、7月1日から11月21日までの期間に、約10tの堆肥化試験が行われる予定です。

次に、基本方針2の施策2-4)「地域生活環境の保全」では、施策の中に共同住宅入居者へのごみ出しルールの徹底を掲げておりますが、「学生へのごみ出しルールの周知の強化」ということで、4月に札幌学院大学と酪農学園大学で、新入生を対象としたごみ出しルール等説明会を実施しました。参加者は両大学合わせて約600人でした。なお、北翔大学では、個別の授業の中でごみ出しルールについて取り入れてもらい、情報大学ではパンフレットを配布しました。今後は、市内4大学で入学時の説明会の実施を目指していきます。

次に、基本方針3の施策3-1)「ごみ処理手数料の減免拡大」では、対象者の拡大などにつきまして、福祉部局と連携しながら検討を進めております。

次に、基本方針4の施策4-3)「環境クリーンセンター処理手数料の検討」では、市民・事業者・行政の負担のあり方も含め、総合的に検討しているところであります。

説明は以上であります。

○会長

ありがとうございました。何かご質問・ご意見などがあればお願いします。

○中井委員

先ほどの延長になりますが、もう少し具体的に事業系ごみの適正処理についての説明をいただきたいです。資源化推進のやっていることはある程度わかりますが、「多量排出事業所指導」というのは、単なる計画なのか何か新しくするのか説明していただきたいです。

○会長

資料2の施策2-5)「事業系ごみの適正処理」の△がついている「指導・啓発」、「多量排出

事業所指導」についてこれまでの施策、あるいは何か新しいものがあるかどうかということですが、事務局から何かございますか。

○廃棄物対策課長

資料2の施策2-5)「事業系ごみの適正処理」の「指導・啓発」、「多量排出事業所指導」は継続ということで△の印を付けております。これまで取り組んできたことは継続的行っていくと同時に、具体的に新たな取り組みについても今後検討していきたいと考えております。

○会長

△の印は基本的に継続をしていくということですが。中井委員、ほかに追加でご質問・ご意見ございますか。

○中井委員

単に継続するだけではなくて、やはり充実を図るべきではないでしょうか。一般廃棄物処理基本計画の見直しの時も議論がありましたが、事業系については、普通の計画の方に一部統合したということもあるので、ここは積極的に取り組んでいく必要があると思います。継続しているからいいということではないと思います。以上です。

○会長

積極的に取り組んでいるとは思いますが、そういった意見を頂いたということで、事務局の方もよろしく願いいたします。

ほかに何かございますか。よろしければ、3点目に移らせていただきます。「第8期分別収集計画の策定について」事務局からご説明お願いいたします。

③第8期江別市分別収集計画の策定について

○資源化担当主査

廃棄物対策課の五十川です。私から報告事項3「第8期分別収集計画の策定について」ご説明いたします。

資料3をご覧ください。当計画は平成7年12月に施行された容器包装リサイクル法に基づき、容器包装廃棄物の排出見込み量等について、5か年計画を策定し、3年ごとに見直すものです。これまで平成9年始期の第1期から平成26年始期の第7期までを策定しており、この度、平成29年度から33年度までの5年を期間とする第8期を策定いたしました。この分別収集計画は、国が再商品化事業者の入札判断や施設能力増強などの事業判断の根拠として用いるため、規定の算定式により事務的に策定し、ホームページにおいて公表してきたものです。

内容についてご説明いたします。資料3の2ページ、上の表をご覧ください。平成29年度から33年度の容器包装廃棄物の排出見込み量は、江別市における平成27年度の組成分析と、人口推計における変動率から算出しているものです。

次に、4ページをご覧ください。この表はペットボトルなどの分別基準適合物の見込み量で、それぞれの推計につきましては、平成27年度の収集実績に人口変動率を掛け合わせて算出しているものです。

当計画は北海道に提出しているものであり、現在北海道では各市町村から提出された計画を踏まえ「北海道分別収集計画」を8月までに策定する予定であります。11月頃には、各都道府県の計画に基づき環境省より分別収集計画量が公表されるものです。

説明は以上であります。

○会長

ありがとうございました。何かご質問・ご意見などはございますか。

(質疑等なし)

(2) その他

○会長

このような計画をもって行っているということですが、今の件についてはよろしいですね。それでは、今日の3つの報告事項を見渡して、全体的に何かございますか。

目標値達成のための様々な施策を用意されているところでございますので、積極的にやっていただいて、また不足の事項があればこの審議会でも協議いただくこととなりますので、よろしいでしょうか。

○中井委員

容器包装の廃棄物処理につきましては、既に収集している容器類のほかに、プラスチック系のごみについては別途拾う余地があると思います。分別によって資源化できるので、容器包装と関連して資源回収する方法を検討する必要があると思います。取り組みが甘く、行政として役立っているからいいのではないかと見受けられ、積極的な取り組みが見られません。市民の協力で資源化・燃料化できるものについては別途回収してほかの業者に無償でもいいから引き渡すという方法があると思います。この部分をこれから検討していかなければならず、このことについてどのような考え方があるのかお聞きしたいです。また、部長からのご挨拶にありました食品ロスに対する対策について何か検討しようとする内容があれば今から教えていただきたいです。以上の2点です。

○会長

今のご質問は2点分けてございますか。1点目は資料3でご説明されている容器包装リサイクルの件は容器包装の分別回収、資源化をするための計画ということですが、最初のご質問としては「江別市独自でリサイクルをする」ということですか。

○中井委員

そうです。プラスチック系ごみについて考えを知りたいです。

○会長

札幌市の中沼町で「リサイクル団地」というところがあり、ペットボトルを回収して、シートや卵のパックを作っています。そういったことを江別市でも取り組むということですか。

○中井委員

説明不足だったかもしれませんが、隣の札幌市では、ペットボトルとトレイ以外のプラスチック類も別途回収しています。しかも、無償でそれを資源化しています。ですからそのあたりを関連して対象を広げる検討をすべきだと思います。

質問としては、そのあたりの検討がやる気がなく行なわれていないのか、あるいはしているのかということについてお答えできればと思います。

○会長

少し長くなりますが、昨年、一般廃棄物処理基本計画の中間見直しを行い、各施策をはじめたばかりです。これから5年間動かしていくので、分別の見直しなどはこれから適宜必要に応じて

入ってくると思います。また、中間見直しをした段階ですので、今すぐどうのこうのということではないかと思います。ご質問を受けるとするならば、分別の仕組みを変えるとか、あるいは新しい処理方法を考えるか、そのような可能性があるのかというご質問で受けたいと思います。事務局はどのようにお考えでしょうか。中間見直しを今作った段階ですから、それに沿って行われていくと思われませんが、どうでしょうか。

○廃棄物対策課長

収集区分を札幌市のようにプラごみを設けてはどうかという形で解釈したのですが、よろしいでしょうか。まず、今のリサイクルセンターの施設での処理につきましては、現状のような形で続けていくことになるかと思われまます。今後、施設等のあり方については考えていく必要もあると考えています。また、札幌市のように分別区分を増やしますと多大にコストもかかりますので、検討には今後かなりの時間をかけて考えていきたいと考えております。

○会長

ということでよろしいでしょうか。具体的なご質問・ご意見ではありませんので、今後市の方では、必要に応じて検討するという回答です。いかがでしょうか。

○中井委員

検討することで今後前向きなものが出てくるということで理解し、了承します。

食品ロスにつきましても、部長のご挨拶でもあったように堆肥化以外で何か食品ロスの関連で検討されていることがあれば教えていただきたいです。

○会長

資料2の1-10でご説明がりましたが、「事業系食品残渣再利用の推進」ということで昨年からは給食残渣で飼料化を実施しており、さらに17tを20tに増やして実験を行うということの報告がありました。また、肥料化については民間事業者で7月から実験を行うというご説明があります。それ以外にということでしょうか。

○中井委員

食品ロスについては流通事業者の取り組みの問題です。そこにぜひ働きかける必要があると思います。そのあたりに関しては検討している、やろうとしているということであれば了解いたしますけれども、やる気があるのかということなのですから、最後にお聞かせ願いたいです。

○会長

もちろん施策の中で、法律的枠組み、あるいは市のスタンスの中で、取り組んでらっしゃると思います。鈴木課長のご説明にありましたように今のところそういった形で積極的に具体的なものはないようではありますが、今後取り組まれていくことと思います。ここで改めて所信を述べることではないと思いますので、私のところに留めさせていただきます。今後、審議会として資料2の4つの基本方針の中でさまざまな議題に対し意見を出していただくということになると思います。今の段階では施策の中で江別市の限られた施策、人員、予算のなかで取り組んでいるわけですから、やる気があるかどうかの議論はここではするような話ではないと思います。そのことに関しては私で留めさせていただいて、今後この審議会で進捗を見せていただきたいと思います。

他にございますか。以上報告事項3点について、ご質問・ご意見いただきありがとうございます。それでは事務局にお戻しします。

【閉会】

○廃棄物対策課長

本日はご多用の中、ご出席いただきありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第1回江別市廃棄物減量等推進審議会を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。